



Zip US UP Art Project

作品制作への参加・ご協力をお願い

アーティストの富田哲司と申します。6月2日から8月26日の間、本郷新記念札幌彫刻美術館で企画展「となりのひと」が開催されます。展示を予定している「ZIP US UP アートプロジェクト」にご参加いただきたく、ご連絡させていただきます。本プロジェクトは同規格のジッパーがついている所有者の異なる服を、じゅずつなぎにしていくアート作品です。

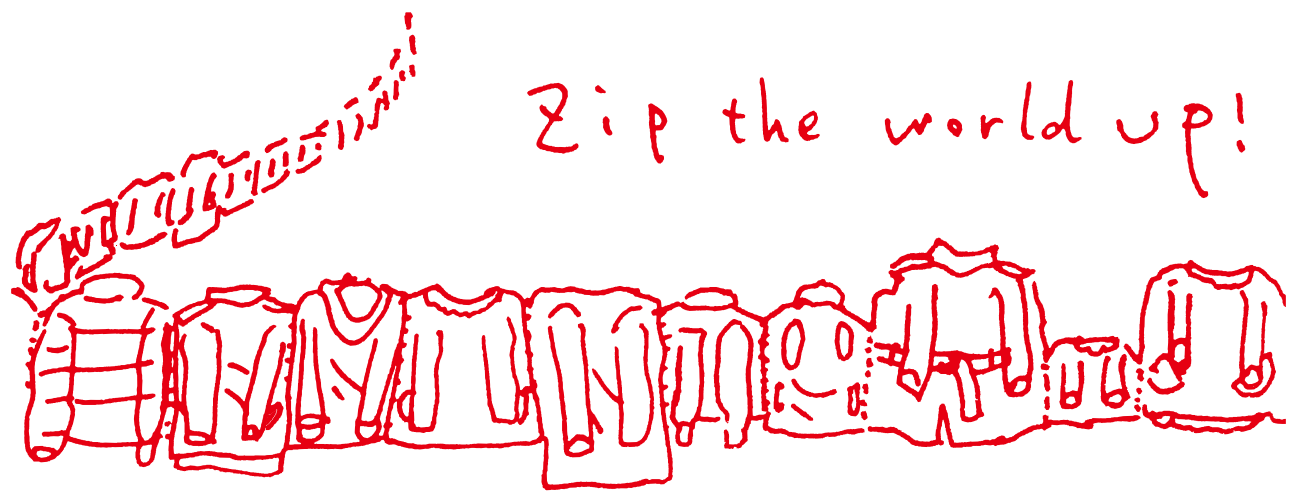
お持ちの服の中から YKK の 5M の金属製ジッパーを使用した上着(ブルゾン、ジャンパー)などを無償でお借りしたいと考えております。作家が直接ジッパーが合致するかテストも兼ねて引き取りにあがります。そこで服に関する簡単なインタビューを考えています。ご協力頂いた方は、本展の入場が無料となり、6月16日(土)に行われるトーク、7月28日(土)のカフェパーティーへご招待させていただきます。詳細はメールにてご連絡させていただきます。お借りしました服は、展示終了後にお伺いした住所に郵送にて返却させていただきます。

*クリーニングを出さずにご返却となります。細心の注意をもって取り扱います。ご了承ください。

*お伺いした個人情報は本プロジェクトのご連絡・運送のみに使用いたします。

*開催予定のパーティー等イベントに中止・期日変更があった場合はメールにてご連絡させていただきます。

よみがな 名前	性別 男 ・ 女	ご職業
E-mail	お電話	
住所		
コメント		



なにげなくジップをかけ違えたことから始まりました。

服に使用されているジッパーは様々な規格が存在し、つながったり、つながらなかったりします。世界には、言語、人種、宗教、ヒエラルキー、政治信条などから生じるさまざまな制約、言い換えれば不可視の境界線が存在します。「ZIP UP ジップアップ」という言葉は、日本でも「口にチャック」という言いまわしがあるように、口をふさぐこと、沈黙を象徴する言葉です。しかし、人が互い沈黙し、静止している世界が、大きな力で揺さぶられたとき、助け合えるのが「となりのひと」だと信じています。

服をジッパーでつなげていくだけの、とるに足らないアクションが、各々が持つ境界を超え、他者とどこまでも繋がることのできるという可能性を呼び起こす鍵となります。

それが、「世界はシームレスに繋がることのできる」という大いなる物語へのささやかな回答であり、つたない証明であると考えます。



お問い合わせ・ご連絡先

富田 哲司 Tetsushi Tomita

E-mail totomita@kyp.biglobe.ne.jp

プロジェクト HP <http://tetsushitomita.com/zip>

facebook ページ <https://www.facebook.com/zipusup>